

# 身近なものと関わり 感性を育む

## 国公幼 2年間の研究成果まとめ報告書

全国国公立幼稚園・こども園長会（会長：高橋慶子・東京都墨田区立みどりがおかこども園長）は令和4・5年度の2年間、「身近なものとの関わりを通じて子どもの豊かな感性を育むための調査研究」身近なもので作って遊んで！親子

で一緒に樂しまう！」に取り組んだ。事業を進めた特別事業委員会（委員長：足立祐子・東京都墨田区立富士幼稚園園長）は、研究成果をまとめた報告書を発行した。提言に基づく実践事例など、研究成果を紹介する。

## 親子で作つて遊ぶ 生活体験を豊かに

研究のねらいは、生活の中にある身近なものを利用して「作って遊ぶ」ことを通した親子の触れ合いを広げるとともに、その中で「限られたものを大切にする」という意識を高めることで生活体験を豊かにしていくこと。

研究1年目には、全国の国公立幼稚園・こども園の保育者と保護者を対象とした実態調査を実施。その結果を基に、幼稚園・こども園や家庭、地域において「子どもの豊かな感性を育む」ための提言をまとめた。

提言は、①遊びや生活の中で身近なものと関わり、いろいろな素材に親しんだ



「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」の報告書の表紙

### 3 提言に基づく実践事例を紹介

#### 京花紙丸めてブドウ 廊下の壁面に飾る

提言1に基づく実践事例

は、3歳児の月の「おいしくアーチを取る」行動につなげようの一連の活動である。園にあるビニール袋や京花紙、セロハンテープなどを使い、作つて遊ぶことを楽しんだり、作ったもので友達とやりとりしたりして遊べるように素材を用意することも、子どもの手に届く高さの廊下の壁面にアドウ(つる)を模した壁面装飾を作ったところから始まった。

この壁面を見た子どもたちは「アーチがなっていい」と興味を示し、アドウを取つて食べるまねをしたり、保育者に話しかけたりして遊ぼう。参觀を兼ねて、親子で一緒に製作活動をして遊ぼう。また、作つたもので一緒に遊んだりして過ごす日を設けた取り組みで、新聞紙を用いておき、親子で相談して好きな方から作り始められるようにした。

提言2に基づく実践事例

は、4歳児11月の「おうちの人と一緒に新聞紙で作って遊ぼう」。参觀を兼ねて、親子で一緒に製作活動をして遊ぼう。また、作つたもので一緒に遊んだりして過ごす日を設けた取り組みで、新聞紙を用いてお部屋にアドウが作れる味を持った子どもから素材に関わって作れるように使つたフライングディスク材料があるよ」と声を掛け、材料を示した。子どもたちは自分なりにび方を簡単に説明すると、簡単には楽しく遊べそうな教科書を用いて遊びながら、子どもたちだけではなく、通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究を通してまとめていった。調査・研究の内容を今後の各園での実践に生かし、子どもたちの豊かな感性を育む取り組みを続けていくとしている。

を育むための幼稚園・こども園の役割について、

「遊びや生活の中で、身近ないろいろな素材を利用し

て遊ぶ楽しさを感じられる機会を増やす」「身近なも

のに関わって遊ぶ体験を、保護者に積極的に発信す

る」を示した。

特別事業委員会の足立委員長は、「身近なもので作

つて遊ぶ活動」は園での経験が遊びにつながり、今後のものづくりへの興味・関心・意欲に結び付くことが分かった。調査・研究の内

容を今後の各園での実践に生かし、子どもたちの豊かな感性を育む取り組みを続

けていくとしている。